



「よいよ未来の創造」

「情熱」「絆」「感動」

発行 令和5年4月17日
「己に厳しく 人に優しく」
波佐見町立波佐見中学校
校長 酒井 一男

入学式

4月7日（金）の入学式で、新入生129名を迎え、全校生徒385名がそろいました。式辞では「日々の授業を大切にしてほしい。自分の言葉、行動には、今まで以上に責任を持ってほしい。学校行事や生徒会活動、部活動に情熱を燃やしなが、積極的に取り組み、仲間との絆を深めてほしい。」と話しました。また、町教育委員会からは「これから出会うさまざまな場面で、自立（自律）の土台となる『自己選択』・『自己決定』・『自己責任』を意識、実践してほしい。東日本大震災などの災害や新型コロナウイルス感染拡大の経験から、今まで『当たり前』・『普通にある』と思っていたことは、決して『当たり前』・『普通ではない』。何が起きるかわからないからこそ、一日一日を、かけがえのない今を大事にしてほしい。」と告辞をいただき、PTA会長からは「なりたい自分について考え、その姿を思い描き、その達成に向けて勉強や部活動、様々な校内活動に取り組んでほしい。今日、明日、一日一日が未来へとつながっています。何事も『点』でとらえず、『線』で考えることを覚えてほしい。努力を惜みず、でも時には休憩しながら、輝かしい未来に向かって歩みを進めてください。」と祝辞をいただきました。生徒会長の太田涼介さんからは、「学校行事」や「学習」についての紹介があり、それぞれの行事や学習に対する心構えを話してもらいました。また、生徒会として「挨拶」に力を入れており、「相手に伝わる挨拶を目指し、立ち止まって相手の目を見てさわやかに挨拶できるように心がけてください。」と、そして「わからないことがあったら私たちに聞いてください。私たちと一緒に、楽しい中学校生活を送りましょう。」と歓迎のことばをもらいました。新入生代表として、旭ゆずさんは「コロナ禍で、私達は当たり前にある生活が何よりも恵まれた環境であると気付きました。感謝の気持ちを持ち、3年間という限られた時間を有効に使いながら、充実した学校生活を送れるように、志したことがある」と、勉強と部活動に対する決意を述べてくれました。また、「これからの道は平たんではなく、遠回りをしたり、壁にぶつかったりすることもあると思います。でもそれは、将来を自分らしく生きていくための原動力になると考え、乗り越えていきたい。」と、さらに「これからの私達を支えてくださる周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、夢の実現のため日々努力し続けていきます。」と力強くあいさつしました。129名の新入生の成長と活躍が楽しみです。



対面式・部活動紹介・歓迎遠足

4月14日（金）に歓迎遠足・対面式・部活動紹介を行いました。早朝から天気予報や雨雲レーダーを確認し、何とか午前中であれば遠足が実施できるのではと判断し、対面式等と歓迎遠足の順を入れ替えて実施しました。甲辰園グラウンドに到着後、1年生を拍手で迎え入れ、歓迎レクリエーションの王様ジャンケンで盛り上がりました。歓迎レクリエーションが終わる頃に、予想より早く雨が降り始め、学校に戻り、早めの昼食を食べ、各教室で学級の親睦を深めました。午後からは対面式と部活動紹介を実施しました。生徒会本部役員の劇や各部の工夫を凝らした紹介に見入ったり、聞き入ったり、盛り上がりながら、生徒会スローガンや各部について理解を深めました。最後に、1年生代表の山脇さんがお礼の言葉を堂々と述べてくれました。

